

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第601号（平成27年11月11日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 第2回 汚染土壌事業化PT開催のお知らせ

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 国家戦略「気候変動の影響の適応計画（案）」まとめ
2. 平成27年度モーダルシフト等推進事業（補助事業）に12件を認定
3. リサイクルポート中城湾港、28年度から水深11m岸壁暫定供用
4. 第16回「北東アジア港湾局長会議」を神戸市で開催
5. 第1回「福山港利用高度化検討委員会」を開催
6. 「港湾技術基準のあり方検討委員会の27年度第1回会合
7. 下関港新港地区で、浚渫土の土捨て場計画の設計へ

=====

《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 第2回 汚染土壌事業化PT開催のお知らせ

第2回汚染土壌事業化PTを下記日程で開催いたしますのでご確認ください。

記

日時：平成27年11月30日（月） 13：30～15：30

場所：（一財）みなと総合研究財団 3階会議室

【事務局】

=====

《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 国家戦略「気候変動の影響の適応計画（案）」まとめ

政府は10月23日、気候変動による様々な影響に対する施策展開の方向性等を示した国家戦略「気候変動の影響の適応計画（案）」をまとめた。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書を踏まえ、沿岸域における高潮・高波への対応策等を盛り込んでいる。

同計画は今後概ね10年間における政府の気候変動の影響への適応に関する基本戦略を示すとともに、政府が実施する施策の方向性を▽自然災害・沿岸域、水環境・水資源、▽自然生態系、▽産業・経済活動、▽国民生活・都市生活、▽農業、森林・林業、水産業等といった分野別に提示している。

港湾では「防波堤等外郭施設及び港湾機能への影響」に対する適応策として、粘り強い構造に係る整備等を推進するほか、気候変動の影響で航路・泊地の埋没等が懸念される施設は、防砂堤等を設置するなど対策を行うべきとしている。

【港湾空港タイムス】

---

## 2. 平成 27 年度モーダルシフト等推進事業（補助事業）に 12 件を認定

国土交通省は 10 月 23 日、「平成 27 年度モーダルシフト等推進事業（補助事業）」に 12 件を認定した。同事業は、温室効果ガス排出削減や低炭素型物流体系の構築を図るため、荷主企業、物流事業者等、物流に係る関係者によって構成する協議会が実施する輸送手段転換等の取組みを支援するもの。12 件のうち 3 件は海上輸送を利用する計画となっている。海上輸送を利用した 3 件の事業概要等は以下の通り。

▽北海道コカ・コーラモーダルシフト推進協議会（王子コーンスターチ、幸楽輸送宇、商船三井フェリー）＝海上輸送への転換。千葉県市原市から北海道札幌市への異性化糖液の輸送を、トラックから海上に転換する。▽新第一塩ビ徳山地区モーダルシフト推進協議会（新第一塩ビ、トクヤマロジスティクス、日本通運）＝鉄道・海上での新規輸送。山口県周南市から全国 15 カ所へのポリ塩化ビニールの輸送を、鉄道及び海上にて新規で開始する。▽鹿児島島の野菜を山形へ届ける推進協議会（ニチレイアグリ、マルエーフerry、結城商事、菅原冷蔵、山形ごぼう商會）＝海上での新規輸送。鹿児島県大崎町から山形県 2 カ所への野菜の輸送を、海上にて新規に開始する。

【港湾空港タイムス】

---

## 3. リサイクルポート中城湾港、28 年度から水深 11m 岸壁暫定供用

沖縄開発建設部那覇港港湾・空港整備事務所が整備を進めて来た中城湾港の航路・泊地浚渫が今年度末までに整う事になり、28 年度から水深 11m 岸壁の暫定供用が可能になる。リサイクルポートとしての機能も充実する。

中城湾港（新港地区）の水深 11m 岸壁は供用が遅れていたが、過年度からの集中的な浚渫により、暫定幅員ながら今年度末で供用にめどがつくことになった。岸壁部分では、エプロン舗装や付属工事一式も今年度末の完成に向け工事が進む。

中城湾港には拓南商事などのリサイクル企業が立地し、先島諸島から集めた廃自動車や廃家電、その他のリサイクル材を拓南製鉄が製鋼炉で活用するとともに、リサイクル化して鉄鋼や鋼材、非鉄金属などとして輸出している。今後 11m 岸壁が供用になれば、航路充実も期待できる。

【港湾空港タイムス】

---

## 4. 第 16 回「北東アジア港湾局長会議」を神戸市で開催

日中韓の港湾局長が一堂に会し港湾について意見を交わす「北東アジア港湾局長会議」の第 16 回会合が 11 月 2 日、神戸市の神戸ポートピアホテルで開催された。日本から菊地美智雄国土交通省港湾局長をはじめ 9 名、中国からは姜明宝交通運輸部水運局副局長ら 6 名、韓国からは崔鳴鏞海洋水産部釜山港建設事務所長ら 10 名が出席し。活発に意見交換した。今回の会合では、各国の代表から「港の賑わいづくり」をテーマに報告があり、日本からは賑わい創出に向けた再開発事例と共に、みなとオアシスの取組について紹介した。

【港湾空港タイムス】

5. 第1回「福山港利用高度化検討委員会」を開催

中国地方整備局は11月2日、福山市役所内で第1回「福山港利用高度化検討委員会（委員長・戸田常一広島大学大学院教授）」を開催した。福山港の拠点性向上とその利用促進を狙いに産官学の代表が委員となって意見を交わした。年度内に今回も含め3回の委員会を開催し、福山港の次期戦略策定をする。当日の委員会では企業のグローバル化に対応した港湾施設やクルーズ船の受け皿となる施設整備の必要性などの意見があった。

戸田委員長は、「時代や情勢が大きく変わりつつある中、福山港においても機能の再編、強化を行う必要がある。本委員会は港そのものの高度化とともに、それを取り巻く環境づくり、全体的な見直しにも繋がっていく重要な委員会である。」と述べた。

【港湾空港タイムス】

6. 「港湾技術基準のあり方検討委員会の27年度第1回会合

国土交通省は10月28日、「港湾技術基準のあり方検討委員会（委員長・清宮理早稲田大学理工学術院教授）」の27年度第1回会合を開いた。港湾施設を建設、改良する際の基準・手引きとなる「港湾施設の技術上の基準」の改訂に向け、設計法や船舶大型化への対応、維持管理等といった分野別の見直しの方向性を確認した。港湾局では今後、具体的な改訂内容の検討に入り、省令の改正等の手続きを経て平成30年度に改訂する方針。

【港湾空港タイムス】

7. 下関港新港地区で、浚渫土の土捨て場計画の設計へ

九州地方整備局下関港湾事務所は、下関港新港地区において、船舶の航行安全等に対応する泊地浚渫、ならびに浚渫土の土捨て場計画に伴う実施設計業務を今年度実施する。次年度以降に事業化対応を図って行く見込み。

下関港新港地区では水深12m岸壁1バースが供用になっており、今年4月からはコンテナターミナルとして機能している。

同岸壁前面の泊地は基本的に水深12mを確保しているが、岩礁など部分的に浅い部分が点在していることから、船舶の航行安全の向上を狙いに、区域全体を水深12mとするための実施計画をまとめる。また関連して土捨て場の場所確保とその施工法なども検討する。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc\_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

※メルマガ配信先に変更がある場合は事務局までご連絡下さい。

#####